

科目名	基礎看護学実習 I		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 45時間
科目のねらい	対象理解に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開できる。</li> <li>2. 基本原則に則った看護技術が実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を知る。</li> <li>4. 看護を実践する際に必要なことを考えることができる。</li> <li>5. 看護実践に必要な基本的態度がとれる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 8日間</p> <p>実習方法  実習1日目：実習病院のガイダンス・オリエンテーションを受ける。  シャドー実習を行う。  実習2日目～：成人又は老年期の患者を1名受け持ち対象の把握をする。</p> <p>* 詳細は基礎看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	対象に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開できる。</li> <li>2. 基本原則に則った看護技術が実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を知る。</li> <li>4. 看護を実践する際に必要なことを考えることができる。</li> <li>5. 看護実践に必要な基本的態度がとれる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 成人又は老年期の患者を1名受け持ち、看護を展開する。</p> <p>* 詳細は基礎看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人看護学実習Ⅰ・成人看護学実習Ⅱ		
担当教員	原野 理		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	4単位 180時間
科目のねらい	成人期にある健康障害を持つ対象とその家族を理解し、対象の健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある健康障害を持つ対象とその家族の発達段階の特徴をふまえ、対象とその家族を理解できる。</li> <li>2. 対象の健康レベルに応じた看護計画の立案・実践・評価ができる。</li> <li>3. 成人期にある健康障害を持つ対象とその家族との関わりを通し、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>4. 成人期にある対象とその家族との関わりから、看護について考えることができる。</li> <li>5. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 成人看護学実習Ⅰ：3週間 成人看護学実習Ⅱ：3週間</p> <p>実習方法 患者1名を受け持ち看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は成人看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人看護学実習Ⅲ		
担当教員	原野 理		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	成人期にある手術を受ける対象とその家族を理解し、対象の手術侵襲に伴う変化に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある手術を受ける対象とその家族の発達段階の特徴をふまえ、対象とその家族を理解できる。</li> <li>2. 対象とその家族へ手術の経過状況に応じた看護計画の立案・実践・評価ができる。</li> <li>3. 成人期にある対象とその家族との関わりを通し、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>4. 成人期にある手術を受ける対象とその家族の関わりから、周手術期における看護について考えることができる。</li> <li>5. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 3週間の実習中、病棟実習、手術室実習、救急救命センター実習を行う。</p> <p>* 詳細は成人看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	老年看護学実習 I		
担当教員	長尾 真由美		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象にあわせた日常生活援助の実際から老年看護の基礎を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象とその家族の特徴を理解できる。</li> <li>2. 加齢変化や健康障害が日常生活上におよぼす影響と、対象とその家族に必要な援助を理解できる。</li> <li>3. 加齢変化や健康障害をもつ対象に必要な援助を、安全・自立を考慮し実施できる。</li> <li>4. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、老年看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 老年者を取りまく保健・医療・福祉チームとの連携の必要性和看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 初日は施設オリエンテーションを受ける。 特別養護老人ホーム・療養病床・デイサービスをローテーションしながら実習する。</p> <p>* 詳細は老年看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	老年看護学実習Ⅱ		
担当教員	長尾 真由美		
配当年度	3年 前期 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	老年期にある対象の特徴を統合的に理解し、加齢変化や健康障害をもつ老年者とその家族を尊重した看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象とその家族の特徴を理解できる。</li> <li>2. 加齢変化や健康障害が日常生活上におよぼす影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を展開できる。</li> <li>3. 加齢変化や健康障害をもつ対象に必要な援助を、安全・自立を考慮し実施できる。</li> <li>4. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、老年看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 老年者をとりまく保健・医療・福祉チームとの連携の必要性和看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 急性期または回復期の老年期にある患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は老年看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護学実習		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	3年 前期 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	小児看護の対象を理解し、小児の成長・発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児とその家族の特徴をふまえ、対象を理解することができる。</li> <li>2. 対象の発達段階・個別性を考慮した看護を展開できる。</li> <li>3. 健康障害のある小児とその家族に必要な援助を実施できる。</li> <li>4. 小児とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 小児とその家族との関わりから、小児看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 小児を取り巻く保健医療福祉チームの連携と、看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 3週間の実習中、保育所と小児病棟、小児科外来で実習を行う。 病棟実習では患児を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は小児看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	母性看護学実習		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	3年 前期 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・精神的・社会的特性を理解し、対象とその家族に適した母性看護を展開・実践するために必要な基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産婦・褥婦の身体的・精神的・社会的特性を踏まえ、対象の健康状態について説明できる。</li> <li>2. 褥婦の健康生活維持と母子関係成立への援助ができる。</li> <li>3. 新生児の身体的特性を理解し、胎外生活適応を促す援助ができる。</li> <li>4. 妊婦の健康生活維持のための援助について理解できる。</li> <li>5. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族との相互関係を通して、看護職としての倫理的態度を身につける。</li> <li>6. 実習を振り返り母性看護についての理解を深めることができる。</li> <li>7. 周産期を取り巻く保健・医療・福祉の連携と看護の役割について知ることができる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 正常産婦・褥婦及び新生児を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は母性看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	精神看護学実習		
担当教員	佐藤 かをり		
配当年度	3年 前期 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	精神に障がいを持つ対象とその家族を理解し、精神看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障がいをもつ対象とその家族をふまえ、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。</li> <li>2. 対象の個別性を考慮した看護過程を展開できる。</li> <li>3. 精神に障がいをもつ対象とその家族に必要な援助が実施できる。</li> <li>4. 精神に障がいをもつ対象とその家族への援助をとおり、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 精神に障がいをもつ対象とその家族への援助をとおり、精神看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 対象をとりまく保健医療福祉チーム連携と看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 開放病棟または閉鎖病棟で1名を受け持ち看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は精神看護学実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	在宅看護論実習		
担当教員	金田 百香		
配当年度	3年 前期 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	地域で生活する人とその家族のニーズを理解し、その人らしい生活をささえる看護が実践できる基礎的能力を養うとともに、保健医療福祉の連携・社会資源の活用を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活している対象とその家族のニーズを理解する。</li> <li>2. 地域で生活している対象とその家族のニーズに沿った看護を考えることができる。</li> <li>3. 在宅療養を支援するための継続看護の重要性を理解する。</li> <li>4. 在宅看護論実習を通して、在宅看護の理解を深めることができる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 訪問看護ステーション・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・通所介護・認知症対応型共同生活介護・地域医療連携室をローテーションし実習する。</p> <p>* 詳細は在宅看護論実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ	実習要綱を読み実習の目的・目標を理解しましょう。また、在宅看護に関連する社会制度や講義内容を復習してください。 健康管理に留意し、身だしなみに気を配り礼儀正し行動を心がけましょう。		

科目名	看護の統合と実践実習		
担当教員	長尾 真由美 熊木 美香		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	知識・技術を統合し、チームにおける看護師の役割・機能を学ぶと共に、様々な患者への看護を展開する基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院理念，看護部理念に則った看護管理を理解する。</li> <li>2. チームで継続して行われている看護について理解する。</li> <li>3. 複数患者に必要な看護について，優先順位を判断しながら実践できる。</li> <li>4. 看護専門職としての責任と役割を学ぶ。</li> </ol>		
授業計画・内容	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 実習1日目にガイダンス・オリエンテーションを受ける。 各自のスケジュールに則りシャドー実習を行った後、複数受け持ちを行う。</p> <p>* 詳細は看護の統合と実践実習要綱参照</p>		
使用テキスト 参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			